

会員名：大分県

重点課題に関する報告事項 (1) 確実な再生林の実施

(表題) 早生樹プロモート林の整備について

(概要)

- ・本県では、針葉樹人工林資源のうち 46 年生以上の伐採適期を迎えた森林が 64% を占める一方、20 年生以下の若齢林は 7% であり、将来資源の確保が課題となっている。
- ・このため、スギ・ヒノキと同様の活用が可能で、30 年生程度で収穫が見込める品種・樹種を「早生樹」と定義し、中でもスギ特定母樹由来の苗木（スギ特定苗木）の増産を推進している。
- ・具体的には、本県のスギ苗木の R4 生産量約 150 万本のうちスギ特定苗木は約 4 万本で 2.6% だが、R15 にはスギ苗木 230 万本のうちスギ特定苗木を 140 万本で 61% とする計画である。
- ・このような状況の中、林業関係者からは「スギ特定母樹のうち、どの品種がどの地域に適しているかわからないため、植栽することに不安がある」との声が聞かれた。また、現状ではシャカイン、タノアカが多く植栽されており、育林や製材の面で大きな課題が無いことから、あえて新品種であるスギ特定苗木を植栽することにリスクを感じている林業関係者が多いように思われた。
- ・上記を踏まえ、スギ特定苗木の品種ごとの適地の把握と、林業関係者への PR を目的として、今年度に「早生樹プロモート林」を整備することとした。

「早生樹プロモート林」の概要

- ① 箇所：県内 18 箇所…気候（降水量、気温）、地質が異なる箇所に設置
- ② 品種：8 品種
 - ・スギ特定苗木 6 品種…成長特性、形状・材質特性、雄花着生性、等を考慮して選定（県佐伯 6 号、県佐伯 13 号、県日田 15 号、県日出 3 号、高岡署 1 号、県始良 20 号）
 - ・在来品種 2 品種…比較対象として、県内で広く植栽されている在来品種を選定（シャカイン、タノアカ）
- ③ 面積：各 0.3ha 程度
- ④ 密度：2,000 本/ha
- ⑤ 配置：各品種を 30 本×2 列ずつ植栽（60 本×8 品種）
- ⑥ PR：県 HP で箇所、植栽品種の特徴、毎年度の成長量、等を公開
各箇所に説明看板を設置、看板の 2 次元コードから県 HP へ誘導